

何でも読もう会

書物名	『ドライブ・マイ・カー』 他1編 村上春樹著	開催 日時	2021.12.8	推薦	内藤
巻・章			青少年セ	出席者	7名

当読もう会で初めて取り上げる村上春樹の本。2014年文藝春秋社で単行本化された『女のいない男たち』。その中から『ドライブ・マイ・カー』と『木野』を取り上げた。

ドライブ・マイ・カー：映画化された作品。中年男優と彼が雇った若い女性ドライバーの車中会話が殆ど。映画の脚本はさぞ難しかっただろうと思ったら、やはり原作をかなり変えていたそうだ。男優とその妻（女優）は仲睦まじく暮らしているのだが、何故か妻は撮影で一緒になる年下男優と関係する、4人も。しかし深入りはせず、夫婦の生活は普段通り。この妻が病死後、彼女の心の有りようが分からない男は、若い女性ドライバーに悩みを打ち明ける。彼女にも父、母から幼児に受けた虐待の傷跡があった――。

近しかった者との間の空隙のやるせなさがテーマと思うが、村上作品らしく最後の捉え方は読者に委ねられる。

木野：ルートセールスで旅回りが多い主人公木野。彼が予定を変えて帰宅したら、妻は木野の親友と寝室で睦んでいた。そのまま飛び出し、会社も退職して別居を始めた木野。そこからこの物語が始まる。青山の裏路地にバーを始める木野の店にも次第に客がつく。色々の客筋だが彼はなるべく関わらないで古いレコードを聴くのみ。その彼に、後半部で事件がおきる。

そこから最後までが謎だらけで、読もう会は大いに盛り上がった。急に現れた三匹のへビは？ 訳の分からない絵はがきは？ 耳を閉じても止まないノックの音は？ 結局分らずじまいで、「やはり春樹はすごい？！」